

津波浸水想定の見直しに伴う地域防災計画の修正

○津波浸水想定の見直し（令和 4 年 12 月公表）

平成 29 年の津波浸水想定公表以降、国により堤防耐震調査や水門等の耐震化工事が行われたため、これらを前提条件に反映し、津波浸水想定の見直しを実施

【前提条件の変更】

	変更前	変更後
河川堤防	一律 75%沈下に設定	河川管理者が実施した堤防耐震調査の点検結果を基に沈下量を設定
水門・樋門	すべて「開放」で設定	耐震工事が完了した施設は「閉鎖」で設定

結 果

- ・堤内地（堤防で守られた住宅地、農地等）で浸水する区域はない想定
- ・津波高より低い堤外地（堤防より河川側にある区域）は浸水（海津市、羽島市、養老町）

<有識者の意見>

- ・津波による住宅地への浸水は想定されないが、海拔ゼロメートル地帯では地震による液状化現象や大雨による洪水の被害に備えるため、今後も住民への啓発実施が必要



○地域防災計画の主な修正内容

1. 堤内地では津波による浸水は想定されないことを踏まえた項目削除

- ・市町による津波防災推進計画策定、津波避難計画策定
- ・市町による避難経路、避難場所の整備等の津波を想定した住民避難規定
- ・徒歩による避難を原則とする規定
- ・市町による避難指示等の発表基準策定
- ・市町によるハザードマップの整備、防災訓練
- ・津波汚泥の堆積等に対する防疫活動
- ・南海トラフ臨時情報発表時における浸水害に対する事前避難

2. 浸水想定区域が堤外地のみになったことによる内容変更

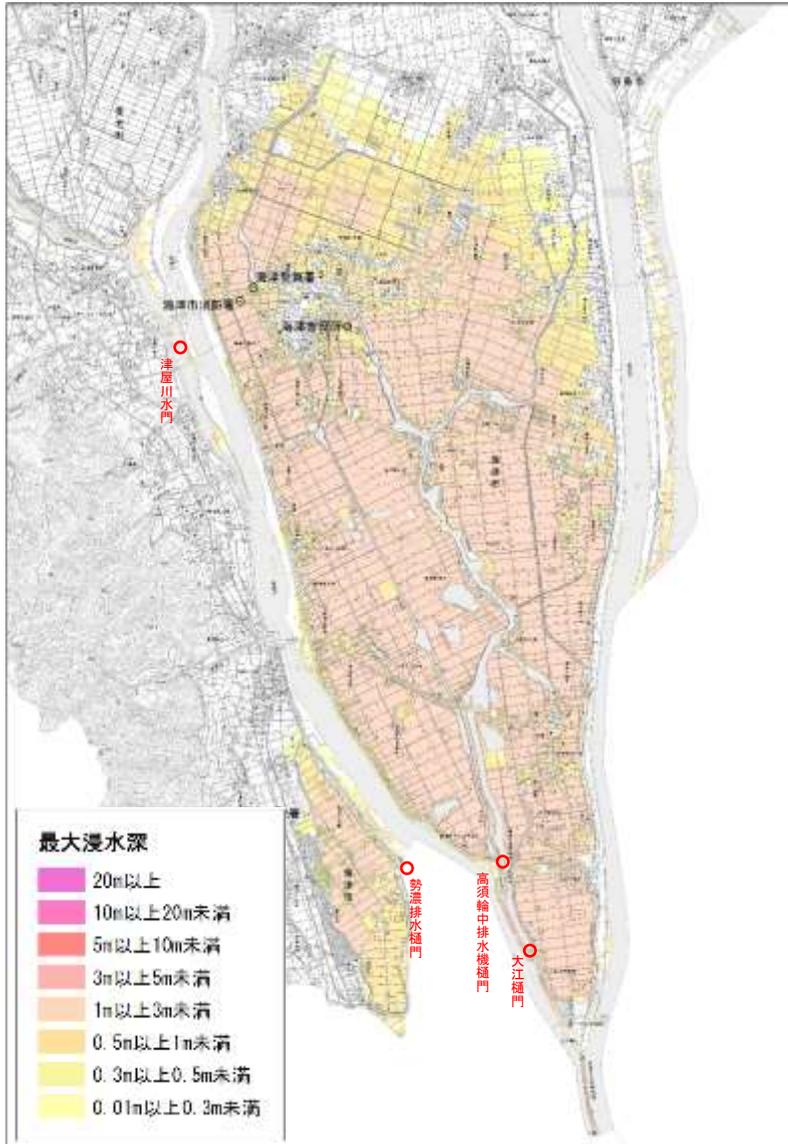
- ・津波が遡上するおそれがあるときの避難は、堤外地からの避難に限定
- ・避難誘導等の防災対応ルールは、堤外地からの避難に限定

3. 海拔ゼロメートル地帯であり、液状化現象等の注意を促すための項目追加

- ・液状化現象発生によるライフラインの停止に備えること
- ・地震による堤防沈下後は洪水発生の危険性が高くなること

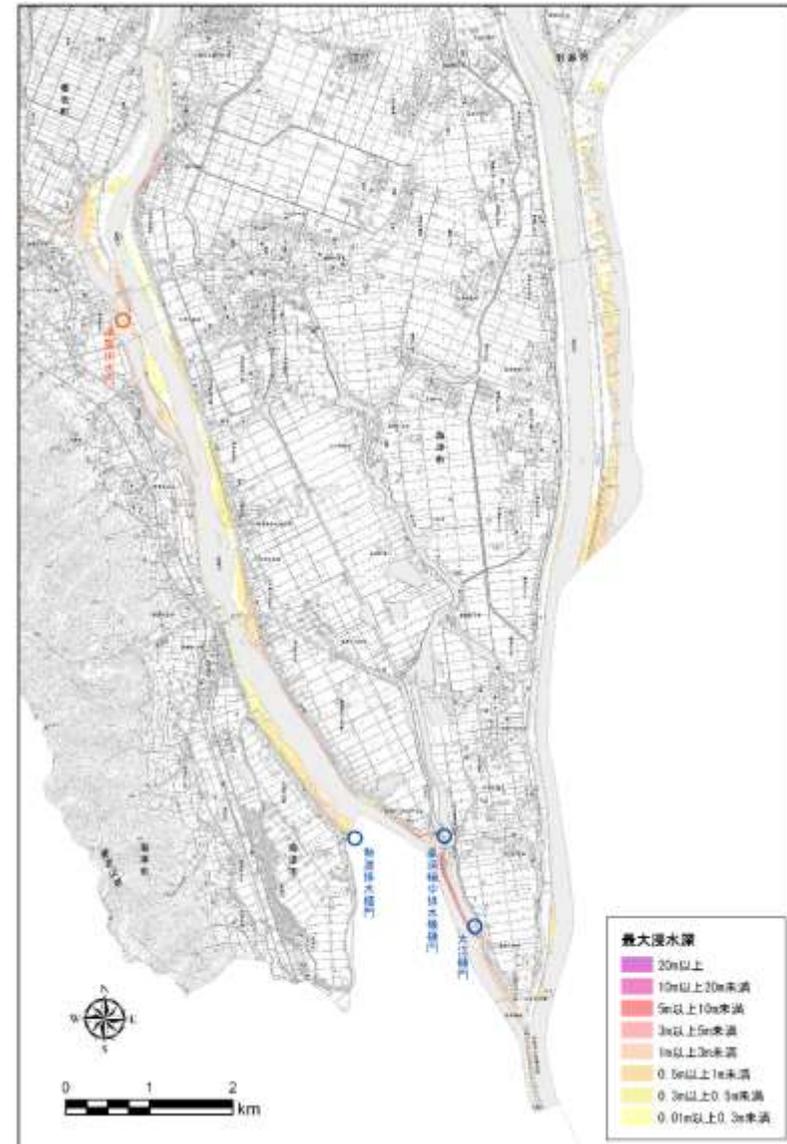
岐阜県津波浸水想定図

○平成29年公表



- ・地震発生直後から堤防沈下により揖斐川左岸から越流が発生
- ・地震発生から約1.5時間後には海津市内の約3割が浸水
- ・津波高より低い堤外地は浸水する（海津市、羽島市、養老町）

○見直し後



- ・**堤内地で浸水する区域はない想定**
- ・津波高より低い堤外地は浸水する（海津市、羽島市、養老町）